

今を未来に

明日22日は土曜日授業 P T A教育講演会

明日は、今年度2回目の土曜授業を行います。子どもたちの様子を見ていただくため、1限目は全学級で公開授業を行います。その後、1年生から4年生は授業を2時間行います。5・6年生はP T A教育講演会「自尊感情を育むために」に一緒に入らせてもらって、保護者の皆様と一緒に学ぶ予定です。

園田先生は昨年度もお越しいただいた先生で、6年生の子どもたちは2度目のお話になります。とてもわかりやすく、自分自身や友だち、仲間のことを考える時間が持てたと聞いて、「もう一度園田先生の話を知りたい。」というお声を頂いておりましたので、今年度もお願いをしました。私も何度か園田先生のお話を聞く機会がありました。大変楽しみにしている講演会です。子どもたちと一緒に園田先生のお話を聞き、考える時間と場を共有することは、これからの子育てにきっと役立つことと思いますし、子どもたちにとっても「私のお父さんが・お母さんが聞いて行ってくれた。」という安心感につながると思います。「毎年P T A講演会に残る方は少ないですよ。」という声を払拭できるだけの参加を期待しています。



昨年度の講演会の様子です。

6年B組で全体研修会がありました。

18日(火)の5限目に6年B組の学級児童だけ残って、「人権教育総合推進事業」の公開授業ということで、算数科「およその面積」の授業を公開し、事後研修会を持ちました。この単元は教科書にもありますが、「子どもたちが解きたくなる学習課題にしていきたい」「互いの考えに共通点や相違点を見い出し、自分の考えを深めていけるようにしたい」、そんなねらいを持って、授業づくりに取り組みました。

子どもたちは敏感で、先行授業をしていた6Aでも6Cでも聞かれていたのですが、「保々地区のおよその面積を求める。」、しかも教科書の問題とは違っておよその形を自分で見立てていく過程が、隣の子と違うことに興味を示し、「およそ」だけより正確に面積を求めようと、あれこれ知恵を絞っていました。私が観ていた班で面白かったのは、図形の切り取り方が違う二つのアイデアで求めた答えが一緒になったことでした。最後にそのことがわかった2人が「ああ、そうなんや。」と納得顔をしてくれたのがすごく嬉しかったです。ただ、事後研修会の中で保々地区にこだわったことで、2マスで1kmとなり、マスの数で考えていた子は $\div 4$ をしなければならないし、辺の長さを数えて面積を計算し

た子は÷2をすることに戸惑う子も多くいたので、課題の出し方と子どもの実態を考えることが今後の授業づくりの課題となりました。

図

$$3.5 \times 3.5 = 12.25$$

$$(0.5 + 1.5) \times 1 \div 2 = 1$$

$$0.5 \times 2 \div 2 = 0.5$$

$$12.25 - (1 + 0.5) = 10.75$$

$$\underline{A. 10.75 \text{ km}^2}$$

図

$$3.5 \times 4 = 14$$

$$1 \times 2 \div 2 = 1$$

$$1.5 \times 3 \div 2 = 2.25$$

$$14 - (1 + 2.25) = 10.75$$

$$\underline{A. 10.75 \text{ km}^2}$$

2学期から事後研修会ではKJ法（授業をみる視点に対して自分の考えを付箋に書き、大きな用紙に貼りながら議論をする方法）を取り入れて、どの職員も「自分が授業者としたら」という思いを持って研修会に参加することを意識しています。この日は他校・他市から来ていただいた先生方にもその中に入れていただき、いろいろな角度から意見を頂きました。

2年B組で研究協議会の授業研修会がありました。

19日（水）の5限目に三泗研究協議会の「男女」共生の部の研究授業を2年B組で行いました。この日の教材はニューヨークの動物園であった本当の話の続きのお話の紙芝居とその絵本でした。いじめの中で見られるからかいの姿（例：「ホモ」「オカマ」などとすぐに言う子どもたち）を無くしていきたい、普段の生活の中で何気なく意識してしまう男女の意識を揺さぶることをねらいに、授業が行われました。



紙芝居の中でオスのペンギン2匹が子育てをしていることを聞いて、「えっ？」と反応をするあたりからグッと授業に入り込み、「えっ？」と感じた子どもたちの気持ちと同じ思いを持った主人公が何と言えるかを考え、最後は悩む主人公に手紙を書いています。授業の中で「日本では男と女しか結婚はできやん。」「でも外国では許されとるよ。」「新婚さんいらっしやいでみた。」などの発言もあって、「そうなんやあ。」と友だちの意見を聞き取る姿も見られました。子どもなりに情報を持っていることにも驚きましたが、この年齢の子どもたちが素直に物事を吸収する姿を見て、この年齢の子どもたちだからこそ普段の私たちの行動や発言が問われるなあと感じました。

この日、2Bの子の集団下校で学校の北へ向かう子連れを出発した時、運動場の中ほどを通過してしまったら、後ろから「校長先生はなぜ運動場の真ん中を通るの？」と言われました。「はっ！」とした時には、運動場のど真ん中にいました。子どもたちは帰る時、運動場の真ん中を歩かないというルールを、どんな時もきちんと守っているんですね。「ごめんね。」と謝る私（校長）でした。

なお、お約束をしていた時刻より、帰りの時刻が遅くなり、保護者の皆様にはご迷惑とご心配をおかけしました。申し訳ありませんでした。